

郷土の扉

The gateway to local history

令和3年3月3日は、国が初めて史跡を指定してから100年に当たります。県内では、隼人塚と大隅国分寺跡の2件が指定されました。いずれも霧島市にある史跡です。

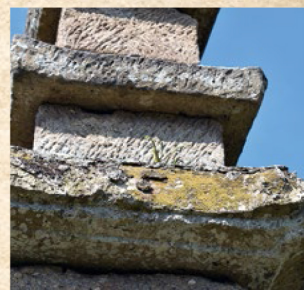
平成11年には日本で最古・最大級の縄文時代の集落跡である上野原遺跡が国の史跡に指定。平成25年には大隅正八幡宮（鹿児島神宮）の境内と弥勒院跡（宮内小学校）、正八幡宮を支えた社家の館跡が「大隅正八幡宮境内及び社家跡」として国の史跡に指定されました。

このように、本市は縄文時代、古代、中世の遺跡が国の史跡に指定されている文化財の宝庫です。

石造文化財の保存

鹿児島県にある文化財の特色として、石で造られた文化財が多いことが挙げられます。隼人塚には石造五重塔が3基と石造四天王像が4躯、

大隅国分寺跡の石塔。下の写真はコケや地衣類（左側の黒い部分や右側の黄みがかった部分がコケ、下側の白い斑点や地衣類）が付着している様子



史跡と石造文化財

大隅国分寺跡には康治元（1142）年の銘が刻まれた石造の六重層塔や石碑、金剛力士像などがあります。石で造られた文化財には、こけむしたものが多く、その姿から歴史や趣を感じる人も多いと思います。今から20年ほど前に隼人塚は大規模な調査と修復を行い、現在の姿に復元されました。2年前には付着したコケなどを取り、再びきれいな姿に戻りました。

コケなどを取り除くと、せつかくの雰囲気も台無しになってしまうの

ではないかと心配される人も多いかもしれません。実はコケなどは石材をもろくしてしまう厄介なものなのです。コケなどの蘚苔類や、菌類と藻類が共生した地衣類と呼ばれるものは、目には見えない石の隙間に入り込んだり、湿度の変化によって膨れたり縮んだりすることによって石材に悪影響を及ぼすことが知られています。例外的なものもあるようですが、貴重な文化財を未来に残していくためにはコケなどは取り除いた方が良いでしょう。

大隅国分寺跡の石塔

今年度は大隅国分寺跡の石塔の修復を行っています。解体してコケなどを取り除き、再び積み直すため、必要部分に最低限の擬石（天然の石に似せた人工的な石）などを塗り、仕上げには水剤をかけて、コケなどが付きにくくします。石造りの文化財はコケなどだけでなく、水や大気など自然環境からも大きな影響を受けるので、なるべく悪影響を受けないようにして、文化財としての価値

を損なわないように処理する必要があります。

隼人塚と大隅国分寺跡が国の史跡に指定されてから100年。これからも市民の皆さんに大事にしたいだけのように、保存と活用に取り組むたいと思います。

（文責＝坂元）

「記念物100年」展

記念物(史跡、名勝、天然記念物)保護の取り組みが始まった大正8年から、令和元年で100年を迎えました。この節目に当たって、令和3年度まで全国で「記念物100年」事業が開催されています。本市ではパネル展を開催しますので、ぜひおい

- 期間＝①12月1日(火)～1月11日(月・祝)、②1月13日(水)～3月31日(水)
- 場所＝①国分郷土館(国分上小川3819)、②隼人塚史跡館(隼人町内山田287-1)
- 入館料＝大学生・一般150円、小中高生80円

☎＝社会教育課 ☎(64)0708